

あれも、これも、カガク

F「今回のテーマは「サイエンス」です」

T「化学も科学も地学も天文学も生物学も…幅広く本を集めて展示します!」

F「みなさん、サイエンスは得意ですか?」

M&T「「…理系ではない、と言っておきましょう」」

F「…3人とも文系です!」

M「ミステリーに出てくるトリックには結構カガクが使われてるよね。ナントカの法則を利用すれば犯行は可能だ!みたいな」

T「ガ●レオシリーズとか、有名です」

M「この前テレビで放送してたアニメ映画でヒロインの子が銃弾をかわしてるのを見たんだけど、あれも何かのカガク?」

F「某小さくなった名探偵作品ですね」

T「(ネットで検索)…科学的には、ほぼ不可能に近いって書いてます」

F「さすが、ら●ねーちゃん…アノ作品に登場してるトリックは、実現可能かどうか検証されてるらしいですよ」

T「え、できるんですか??」

M「よいこはマネしちゃいけません」

T「カガク、おそろし…」

M「ドラ●もんが作られる22世紀なら、カガクでなんでもできそうだよ」

T「四次元ポケットがあると、絶対便利だなーと思いながら見てました」

F「あれって、OOを取り出したい!って思うとそれが取り出せるらしいですよ」

T「おふたりはどんなひみつ道具がほしいですか?」

M&F「「えっと、まず四次元ポケットそのものを手に入れて…」」

T「??」

M&F「「四次元本棚にします」」

T「?!」

F「本が無限に並べられる、夢のようなポケットです」

M「本が棚に入りきらない!という悩みともおさらば!」

T「めっちゃほしい…カガクが進歩していけばあり得ないことじゃない、気がしてきました」

M「そうそう」

F「未来に期待しましょう」

M&F&T「「誰か作って~!」」」



←QR コードでも
アクセスできます

Instagram公開中 ここにアクセスしてね★

<https://www.instagram.com/hondarake55>

ホンダラケ

2026.2.1



無敵のカガク



無敵と書いて、カガクと読む

『宇宙最強物質決定戦』

高水裕一/著 筑摩書房 2023年刊



440.1/23

宇宙の天体や物質のなかで「宇宙最強」を冠するものとは。この本には、その決定戦の様子が書かれています。宇宙論に関する基礎から分かりやすくシンプルに解説されていて、擬人化した物質本体(?) 同士のバトルを著者が実況してくれるというちょっとおもしろい内容です。

宇宙の天体や物質の特徴や、そのスケールを知り星や銀河など各部門に分かれておこなわれる熱い戦いも楽しめます。宇宙論の入門書としてもぴったりの一冊です。

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA(ヤングアダルト)コーナーでご覧いただけます。

2か月に1度、年6回発行予定です。

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YAコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

テーマは「芥川賞直木賞受賞作品」

授賞式会場に人力車で乗り付けた直木賞作家がいたよね…

受賞会場で「もらっというやる」って言った芥川賞作家もいたよね…

『テスカトリポカ』

佐藤 究/著

KADOKAWA 2021 年刊



麻薬カルテル幹部のバルミロは、敵対組織により組織に壊滅的被害を受ける。逃亡先ジャカルタにて臓器ブローカー・タナカと出会い、野望を叶える為の“ビジネス”を始める。一方、メキシコと日本のハーフの貧しい少年・コシモは事件を起こし少年院行きに。出院後バルミロと出会い、アステカを通し奇妙な関係を築いていく…。神々の神秘に呑まれません様ご注意を。

P.N. ティトラカワン(高校1年生)

F/サト

「こんな本、棚から見つけました」

のコーナー

このコーナーでは、スタッフが棚を見て“再発見”をした本を紹介し

『スカイエマ』

スカイエマ/画 玄光社

2014 年刊

YAの棚の一番下はサイズの大きめの本が並べてあるのですが、YA向けの絵本なんかはみんな大判なので全部一番下に…。そのせいでしょ、ここはちっとも借りてもらえない本の巣窟と化しています。そこで見つけたのがこの画集。イラストレーターのスカイエマが手がけた本の挿画がいっぱい!「スカイエマ」という名前は知らなくとも、絵を見れば「あ、この絵知ってる!」と思うはず。描かれた若者の表情は鋭い眼光を放ち、つい魅入ってしまう…。そんな魅力あふれた画集が下の棚に埋もれてましたよ!!ぜひ手に取ってみてください。



726.5/スカ

新着図書 Pick Up

『疑惑～思いがけない結末を～』

日下三蔵/編 汐文社 2025年刊



文豪のミステリー短編を収録したアンソロジーです。今の本格ミステリーに見られる派手なトリックなどはありませんが、「どんでん返し」並みの「思いがけない結末」の物語がそろっています。どれだけ科学技術が進んで不可能だったことができるようになって人々の心はなかなか変わらないもの。「自分がしなくたってそうだったはず」みたいな持ちたくないけれど持ってしまう心理をついたストーリーが驚きを呼びます。その鮮やかさについつい引き込まれてしまうことでしょう。

F/ホシ

難しいと思われているけれど、実は面白い名作があるから読んでみてほしいんです。

『雪』

中谷宇吉郎/著 岩波書店

1994 年刊

世界で初めて人工雪の結晶づくりに成功した物理学者中谷宇吉郎。雪博士たる著者の実験のようすを書いたエッセイです。一般の人に興味をもってもらいたいとの思いで書かれているため、理系……とひかなくて大丈夫。雪の結晶にどんな形があつてどのように生まれるのか。静かな文章の中に観察の面白さや発見の喜びがうかがえます。夜のヴェランダで雪を見上げているときの描写は美しく、自分でも見たくなくなってしまうこと間違いなし。見るときは、防寒対策をしっかりと風邪ひかないようにしましょうね★



¥1242 岩波文庫

451.6/94